鶴岡市立西郷小学校　学校だより
令和５年度 第１２号（２０２４．２．２２発行）
～地域・家庭とともにある西郷小学校～

はまな

1/31 全校集会 犬まつりのはてな

■先日ちょっとうれしいことが続きましたので、紹介させてください。

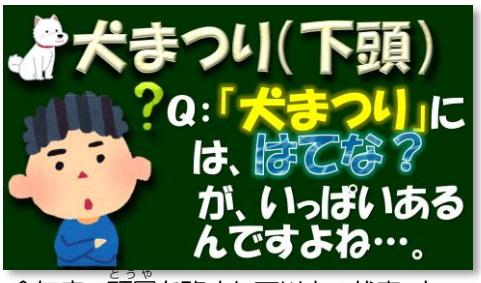
・１つ目は、地域の方をお招きしたある会議にて、地域の方が話してくださった「学校だよりを楽しく読んでいる。ついては読みにくい漢字にルビをつけてほしい。」という声です。お安い御用です。配慮が足りず申し訳ありませんでした。

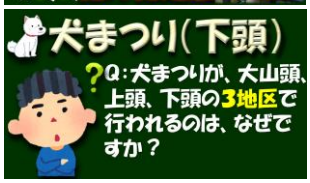
・２つ目は、「西郷地区 新春のつどい」に出席した折、やはり地域の方から「学校だよりを読んでいて思いついたんだが、学校で『犬まつり』のことを子どもたちに話してくれないか？犬まつりが毎年行われるが、それに向かって住民（特に若者）の心を束ね上げ、意識を高めていくのは大変なことなんだ。今から子どもたちに『犬まつり』を誇りに想い、大切にする心を育てたいんだ！」と声をかけていただいたことです。その時には「考えておきます。」とだけお返事しましたが、よく考えてみると、１月最後の全校集会は「校長講話」です。この絶好の機会を逃してはならないと思い立ちました。

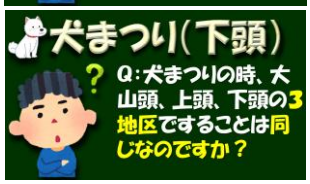
■コロナ禍が明けて、いろいろな行事が元通りに行われるようになり、今年度、赴任して初めて行列を観ることができました。そこで「犬まつり」で疑問に感じたはてなを、地域の方にお聴きして、そこでわかったことを子どもたちにも伝えようと考えました。教えてくださった方は、椙尾神社宮司の宮野様、今年度の頭屋を務めた下川中の代表 本間様です。お二人ともご多用のところ快くご協力いただき、丁寧にわかりやすく教えてくださいました。たいへんありがとうございました。では、全校集会で取り上げた「はてな」のうち、代表的なものを紹介いたします。

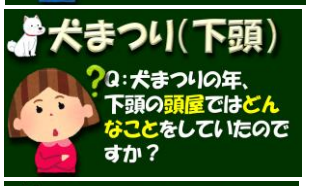
椙尾神社の宮司
宮野 様

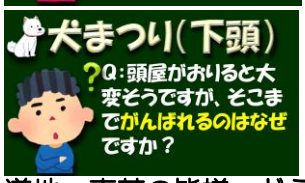
下川中代表
本間 様











Q:神社のまつりで人々のまつりなのに、どうして「犬まつり」なのですか？

Ａ：それは「犬が村を救ったことをお祝いするまつり」だからです。

Q:犬の名前は、なんで「メッケ」なのですか？

Ａ：犬の名前はメッケで、漢字で書くと「滅怪犬」となります。つまり怪物などの化け物を滅ぼす犬なのです。名前自体が「化け物退治のプロ」と教えてくれていたのです。

Q:犬まつりが、大山頭、上頭、下頭の3地区で行われるのは、なぜですか？

Ａ：椙尾神社の氏子は3,000戸を超えるので、３つにしたようです。グループが多いほど、集まれる人数が増えますからね。他にも理由があります。複数あると協力できるし、競い合って、高め合うこともできます。だから、３つのグループにしたのです。（宮野宮司様）

Q:犬まつりの時、大山頭、上頭、下頭の3地区ですることは同じなのですか？

Ａ：「まつり」とは…①みんなの心を一つにまとめるもの、②ふるさとのよさを感じさせるもの、③ふるさとへの誇りを呼び起こすもの、④リーダーが創るものです。リーダーの考えや判断によって「まつり」は、よりよく姿を変えます。変わり続けるから、長く残っているのです。こうして「まつり」は変わり続け、長い時間が経てば大きなちがいが出てきます。それは大切なことです。「ちがい」とは「自分らしさ」で「自分たちの文化」だからです。（宮野宮司様）

Q:犬まつりの年、下頭の頭屋ではどんなことをしていたのですか？

Ａ：７月５日から翌年の６月５日までの１年間、神様をお守りするのが役割です。まず、神様が下川中にやって来た「お祝い」をしました。そして、下川中の家々で交代しながら、１年間、神様にご飯を上げて、お参りをしました。一日も休まず続けなくてはならないので大変な役割です。最後の仕事は最終日、つまり６月５日に大行列を組んで、椙尾神社に神様をお返しすることです。そして、次の日、次の頭屋に引き継ぐのです。（本間様）

Q:頭屋がおりると大変そうですが、そこまでがんばれるのはなぜですか？

Ａ：犬まつりは、長く続いている伝統行事です。その伝統を守ること、その歴史に名前を残せることは、たいへん名誉なことです。頭屋の役を与えられたのであれば、その期待に応え、しっかりと務め上げるのは当然のことと、下川中の全員が、そう考えています。こうした想いは、親から子へと代々、受け継がれていきます。こうして西郷の下頭グループでは、頭屋の役割を３００年もの間、途切れることなくつないでいるのです。今回、下川中では全員が心を一つにして、その役割を果たすことができました。とてもうれしく思っています。（本間様）

■集会の最後には、新年度の頭屋「道地（東茨がサポート）」を紹介させていただきました。「西郷を大切にする子」をめざす８１人は、みな真剣に話を聴いてくれました。（6月5日へと続く）

道地・東茨の皆様、どうぞがんばってください！西郷小から応援しております！